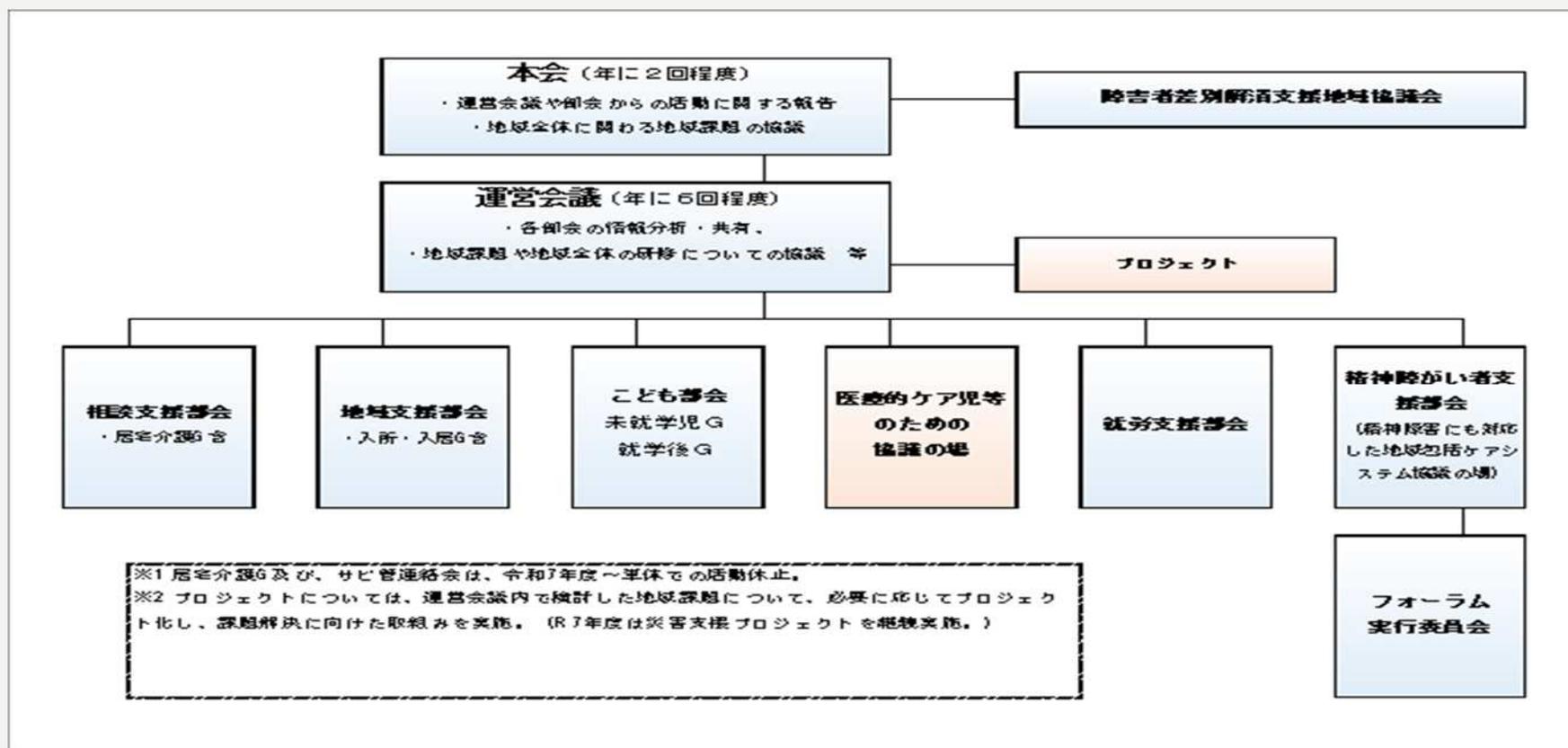


鴻巣北本地域自立支援協議会 災害支援プロジェクトについて

鴻巣・北本地域障がい者基幹相談支援センター
相談支援専門員 増田 理恵

鴻巣北本地域自立支援協議会



鴻巣市、北本市では、共同で鴻巣北本地域自立支援協議会を設置しています。

「ひとりの困りごとをみんなで考えよう」をテーマに、各分野に分かれて、それぞれ話し合いを進めています。

災害支援プロジェクトの経過

- 令和3年度から、防災の研修受講をきっかけに、災害支援プロジェクトがスタート。
- 当初は、防災についての学びから開始し、BCP（事業継続計画）の作成を目指し学びを進めていた。
- 令和5年度の部会では、重度の障がい者の個別避難計画作成が進んでいない課題に着目し、次年度の取組みとして、「医療的ケア児を含む避難行動要支援者の個別避難計画を数名作成し、実際に避難訓練を行うのはどうかとの意見」が出された。
- 令和6年度から、避難行動要支援者のうち、医療的ケア児等の個別避難計画を作成、それを基に、避難訓練実施、訓練の結果を経て、計画の見直しを行うことを目指す。

令和6年度、7年度の 災害支援プロジェクト

令和6年度

- 北本市で実施
- 個別避難計画作成から避難訓練、計画の修正を実施
- プロジェクトへの協力者については、協議を重ねた



令和7年度

- 鴻巣市で実施
- 前年度の実績を基に、実施内容を検討
- 協力者や出席者についても、前年度からのつながりが活用できた

令和7年度 災害支援プロジェクト

- 会議回数：全7回（避難訓練含む）
- 出席者：のべ102名の参加
- 関係者の内訳：
 - ①鴻巣市（障がい福祉課、危機管理課、福祉課）、鴻巣保健所、基幹相談支援センター、医療的ケア児等コーディネーター（訪問看護師、相談支援専門員等）、相談支援事業所、自治会長、民生委員、自主防災組織、埼玉県医療的ケア児等支援センター（地域センター）、障がい当事者ご家族
 - ②児童発達支援事業所、居宅介護事業所、訪問看護ステーション、薬局、訪問看護リハビリステーション、人工呼吸器取り扱い業者、在宅酸素取り扱い業者、埼玉県医療的ケア児等支援センター（県センター）、鴻巣市保育課
 - ③主治医、在宅診療医

会議の内容

	主な協議内容
第1回	前年度の流れを確認し、今年度の実施内容を協議、意見交換
第2回	今年度の取り組み方針の確認、個別避難計画ひな型の決定、対象者の選定
第3回	個別避難計画の内容確認、対象者ご家族の意向確認、訓練想定について協議
第4回	個別避難計画の修正案確認、訓練想定について詳細を協議
第5回	避難訓練関係者周知について、訓練当日の役割分担、タイムスケジュールの確認
第6回	避難訓練
第7回	振り返り、今後の展開について

初回会議～訓練前まで (1)

① 4月にコア会議を実施

② 第1回から危機管理課担当者の出席

③ 対象者の選定

- ・ 鴻巣市が把握している医療的ケア児者リストから、相談支援専門員や訪問看護師の情報を活用
- ・ プロジェクトを実施することを優先とし、協力が得られそうな方に打診

初回会議～訓練前まで (2)

④個別避難計画のひな型づくり

→鴻巣市独自のひな型作成を目指す

【参考にした資料】

- ・三重県 小児在宅医療的ケア児災害対応マニュアル
- ・三重県 災害時対応ノート
- ・生活介護事業所 陽 緊急時医療情報パス
- ・青森県 医療的ケア児災害時個別支援計画作成マニュアル
- ・埼玉県秩父地域 難病患者 災害時個別支援計画作成マニュアル
- ・東京都 災害時個別支援計画
- ・訪問看護ステーションまえあし 行動計画作成のための情報整理シート
- ・鴻巣保健所 難病等患者向け情報一覧、災害への備えのチラシ
- ・国立成育医療研究センター 医療機器が必要な子どものための災害対策マニュアル
等

訓練当日スケジュール

時間	内容
9 : 00	災害発生
9 : 30	安否確認 ①母から支援者への連絡 →無事かどうか、避難の開始確認、LINEを活用 ②地域の協力者（自治会長、民生委員、訪問看護師）から母への連絡 →避難への協力についての確認
10 : 00	関係者集合（Y様自宅）、当日の流れ確認
10 : 05	避難訓練開始、荷物の積み込み
10 : 10（10 : 15）	避難経路に沿って避難開始
10 : 21（10 : 30）	避難先（福祉避難所）に到着 避難所内の環境・災害時用物資の確認、ポータブル電源への機器接続確認、 バギーの階段の昇降体験
10 : 50（11 : 30）	帰宅誘導開始
11 : 01（11 : 55）	ご自宅到着 荷物をご自宅内へ移動、荷物整理 各自一言感想、次回振り返り会議の確認
12 : 00（12 : 40）	解散

実施した主な訓練内容

①自宅から避難先（福祉避難所）まで

- 荷物の準備
- 荷物の積み込み
- 経路の確認、バギーの走行確認、荷物の移送 等

②福祉避難所にて

- 被災時の物資の確認
- ポータブル電源の使用、接続確認、バッテリーの駆動時間の確認
- スペースの確認
- 階段の移動体験

③避難所から自宅

- 荷物の積み込み
- 経路の確認、バギーの走行確認、荷物の移送 等

訓練の様子



訓練の感想

ご家族より

- ・ 7日分の荷物だと、持ち出し準備に時間が掛かるため、短時間で準備できる最低限の持ち出しセットの準備も必要だと思った。
- ・ 災害時、すぐに駆け付けてくれる近所の方に手伝ってほしい。
- ・ 最大の課題は避難所の電源インフラ不足。電源確保が生活維持に直結すると思った。
- ・ 電源の確保のために、東京電力や日頃からソーラーパネルを利用している企業に協力してほしい。
- ・ 避難所での生活の様子がイメージできて良かった。
- ・ 持ち出し品リストをみながらの準備が良かった。
- ・ 訓練を行うことが前提だったこともあり、個別避難計画の作成をしっかりとできた。

訓練の感想

ご家族より

- ・このような機会がないと、地域の方と繋がることができなかつたので、とても良い機会になった。
- ・日々の生活の中で、自治会の方や自主防災組織、民生委員と自ら繋がる機会がないため、支援者につなぎをしてほしい。

～医療的ケア児者の方やそのご家族へのメッセージ～

- ・日々の生活がとても大変だと思いますが、是非災害への備えをしてほしい。
- ・今回の経験を活かして、できることがあれば、協力させてほしい。

訓練の感想

支援者・関係者より

- ・参加してよかった。
- ・災害時にはとにかく人手が必要なことが分かった。特にすぐに駆け付けられる人員が必要。今後、協力者や理解者を増やす取り組みが大切だと思う。
- ・生命維持に、電気が不可欠となる。被災した際に、どのように電源を確保できるか考えたり、協力を得たりしていきたい。
- ・地域には、寝たきりの高齢者も多くいるため、地域の方と一緒に実施することで、医ケア児者だけではなく、地域全体の災害対策を住民の方も考える機会になった。
- ・荷物の搬送では、リアカーの使用のコツを教えて頂けた。このような生活の知恵も非常に大切だと思った。
- ・今回のプロジェクト実施で、住民の方々の防災意識が高まることにもつながると思うため、避難訓練は継続してほしい。
- ・今回の実施には、地域の方の協力が非常に大きかった。快く協力頂け、様々な提案をして頂けて、ありがたかった。

訓練の感想

地域の方より

- ・このような障がいがある方が、地域に暮らしていることを知らなかった。
- ・同じエリアに2名も同じような障がいがある方がいることを知り、なるべくたくさんの人手があった方がいいと思った。
- ・町内隣組やご近所の付き合いも大事だと思った。町内の他の民生委員さんにも知ってほしい。
- ・今回の活動を経て、自治会内の防災について、再度色々と検討している。火災報知器の点検や、井戸水の活用、それに伴い、災害時でも使用可能なトイレの準備、災害に備えた発電機の使用や買い替え等、検討している。

最後に

- ・ やって見ないと分からないことがたくさんある
- ・ 一度やってみると、やりやすくなる
- ・ 協力してくれる人は意外とたくさんいる
- ・ 災害が起きた時には、近隣の方の協力が必要
- ・ 今の状況を見直すチャンスになる。気づきや発見がたくさんある。

まずはやってみる

ここから、続ける、つなげる